

女性が働きやすい社会を..!

●全員参加の「おもてなしの会」その3



引き続き、豊田由貴夫・立教大学観光学部教授の講演です。

* *

◆浦高生よ、女性にやさしくなろう ~現代日本の「婚活」論~

今、私がこの解答を示したとき、会場にどよめきが起こりましたが、そ

んなに少ないのかと驚く人が多いと思います。ここでポイントになるのは、これは「未婚」男性の数字だということです。実は男性全体では600万以上稼ぐ人はもっといるのです。ですけれども、未婚男性に限るとこういう数字になってしまうのです。つまり600万以上稼ぐ人は既に結婚してしまっているということなのです(会場笑い)。

今の状況を少し詳しく見てみたいと思います。この表の下に出っていますが、未婚女性で600万円以上の収入を望む人が約4割です。400万から600万でいいという人が4分の1ぐらいいます。こだわらないという人が約3割います。ただし、この「こだわらない」という人が、

表6-1 男性未婚者の年収と未婚女性の結婚相手の男性に対して期待する収入(%)

		200万円以下 (47.9)	200-400万 (49.6)	400-600万 (1.7)	600万以上 (0.9)
青森	未婚男性の年収				
	未婚女性の期待	こだわらない (30.5)	200万以上 (16.1)	400万以上 (39.8)	600万以上 (13.6)
東京	未婚男性の年収	200万以下 (33.8)	200-400万 (43.2)	400-600万 (19.5)	600万以上 (3.5)
	未婚女性の期待	こだわらない (29.7)	200万以上 (4.3)	400万以上 (26.8)	600万以上 (39.2)

出典:『若者の将来設計における「子育てリスク」意識の研究」2004年

では200万円がいいのか、100万円がいいのかというと、実際にはそんなことはないだろうと考えられます(会場笑い)。結婚するとなれば、やはりある程度の金額は考えるようになるのです。ですから、600万円を望むという4割の人というのは実際にはもっと多いかもしれないということです。

一方で男性の収入を見てもみます。一つ上の行になります。600万以上の人は3.5%です。400万から600万の人が約2割です。200万から400万の人が4割以上います。そして200万未満の人が約3分の1いるのです。この状況だと、結婚するのは難しいというのが想像できるかと思います。

そしてこのような話をすると、それは東京だから水準が高いのだろう、地方では期待の水準はもっと低いのではないか、ということをおっしゃる人がいるかと思います。確かに地方では期待の水準は下がります。一つ上の行は青森の例です。600万円以上望む女性の割合は13.6%です。そして400万から600万という人が約4割ということになります。

ただし、では青森で400万以上稼ぐ人がどれくらいいるかというと、これは東京で600万稼ぐ人の割合よりも、もっと少ないのです。青森で600万以上稼ぐ人はわずか0.9%です。これに400万から600万の人の1.7%を加えても2.6%で、東京の600万以上稼ぐ人の3.5%よりも少ないのです。ですから状況は地方でも同じです。ただその際に出てくる数字のレベルが少し下がるだけだということです。

* *

◆1980年で変わった結婚環境

ではこんなに結婚しなくなった現在なのですが、何が変化したのでしょうか。昔、50年前ぐらいは日本人のほとんど全員が結婚していたのです。先ほどの生涯未婚率のグラフでおわかりのように、50年前には生涯結婚しない人の割合というのは1%台です。

結婚をめぐる様々な要因が変わったのは、だいたい1980年代頃だろうと言われています。

1980年代以前の結婚

- 出会い: 周りがセッティング
職場では総合職男性と一般職女性見合い
- 相互選択: 選択肢が少ない
基準がそれほど高くない?
- 決断: しやすい
結婚後のライフスタイルが画一的

この時期に結婚をめぐる状況がいろいろ変わりました。1980年代以前とそれ以降を比較してみたいと思います。結婚をするにはまず「出会い」が必要であり、相手を「選択」することになり、そして最後に「決断」することになります。このそれぞれの項目について考えてみましょう。

まず「出会い」です。1980年代以前は、出会いは周りがセッティングしてくれることが多数ありました。また職場というのは今の言い方の「総合職男性」と「一般職女性」の集まりでした。ですから昔の職場というのは、今で言う「巨大な合コン会場」とでも言ってもいい組織です(会場笑い)。それに「見合い」という制度もありました。ですから、「出会い」はある程度多かったと考えていいかと思えます。そして「選択」ですが、選択肢はそれほど多くありませんでした。そうなる基準はそれほど高くないので選択はしやすくなるのです。そして最後の「決断」ですが、結婚後のライフスタイルが画一的なこともあり、決断はしやすかったのです。

これが1980年代以降になるとどうでしょうか。まず「出会い」は人によってかなりの差が出ます。

1980年代以降の結婚

- 出会い: 多い人と少ない人の格差
少ない人は自助努力が必要?
- 相互選択: 競争により基準が高くなる?
- 決断: しにくい
ライフスタイルの多様化
- 経済的不安の増大
- 親との同居により結婚の決断を躊躇する?

多い人は非常に多いのですが、少ない人は非常に少ないというように、出会いには「格差」が生じます。ですから少ない人は自分で努力しなければなりません。「選択」は先ほどの話にあったように、競争をするようになりますから基準が高くなります。最終的に選択できない場合が生じるのです。そして最後の「決断」ですが、ライフスタイルが多様化しますから、決断がしにくくなります。ある人と結婚すれば海外に赴任になるかもしれないが仕事は大変そうだ、別の人と結婚すれば地方を回ることになりそうとか、さまざまなライフスタイルがあるので、決断がしにくいということになるのです。

これに加えて先ほどから出ている、経済的不安の増大という要素が出てきます。ますます結婚しにくい状況なのです。そしてもう一つ重要な要因が「親との同居により結婚の決断を躊躇する」という現象です。

パラサイトシングル

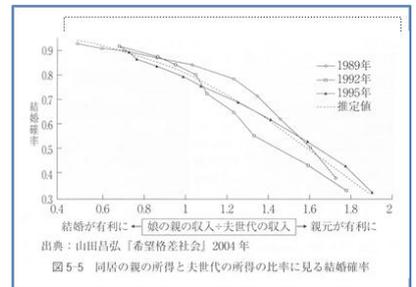
- 山田昌弘(社会学者)による造語
- 学卒後も親に基本的生活を依存する独身者
- 日本独自の現象
- 結婚をするとパラサイトシングルの時期よりも生活水準が下がるのが予想され、結婚をためらう原因となる

パラサイトシングルという言葉があります。山田昌弘という社会学者が作り出した言葉です。先ほどの「婚活」という用語もこの人が言い出したもので、この人はこのように流行る言葉を作り出すのがうまい人です。パラサイトは「寄生する」ということで「シングル」は独身者です。つまり「寄生する独身者」ということです。定義のような形にすると「学卒後も親に基本的生活を依存する独身者」ということになります。

大学を出て就職しても親と同居している人たちです。皆さんの周りにもいらっしゃると思いますが、この人たちは家に数万円とかある程度の額を入れて、母親が食事を作ってくれ、掃除・洗濯もしてくれるというような生活をしています。自分の稼いだ収入をかなり自由に使える立場です。実はこれは日本独自の現象であって、アメリカやヨーロッパでは学校教育を終えると若者は家を離れて独立するのが一般的なようです。しかし皆さんご存じのように、日本は親と同居する事例が多いです。そして、このように親と一緒に生活している人たちは、結婚をすると自分で家賃を支払って、生活費を自分で出さなければならないので、そうすると今の状況よりも生活水準が下がるということが予想されてしまうのですね。ですから、これが結婚をためらう原因となるというわけです。

実はこういうことを調べた調査があります。このグラフは女性の視点から見たものですが、自分の親の収入と、結婚相手となる夫の世代の収入を比較して、それと結婚の確率との関係を見たものです。親の収入が、夫となる世代の収入と比較して、相対的に

に高ければ高いほど、結婚の確率が低くなっています(会場笑い)。結婚すると生活のレベルが下がることがわかってしまうのです。逆に親の収入が相対的に低ければ、結婚の確立は高くなっています。結婚した方が経済的に有利な状態になれるのです。これは時代によって微妙にグラフは変化していますが、傾向としてはきれいに右下がりのグラフになります。



ということになるのですが、もう一度、婚活を推奨している人たちの論理というものを確認しておこうと思います。まず、現在の若年を困む状況は、結婚をしにくい状況です。そして、待っていても理想的な結婚相手は現れません。ということで、結婚をするためには、そのことを強く意識し、そのための活動をしなければならないということです。

* *
◆結婚推奨論として

では、以上のことを踏まえて、これからの結婚というのはどのように考えたらよいか、この山田昌弘と白川桃子の2人が言っていることを確認しておきます。

婚活推奨論(山田・白河2008)

- 現在の若年を困む状況は、結婚をしにくい状況である
- 待っていても理想的な結婚相手は現れない
- 結婚をするためには、強く意識し、そのための活動をしなければならない

まずは男性のみの収入に依存しないということです。今や高収入を得る男性の数はますます少なくなっています。ですから、男性だけの収入に依存せず、女性も働いて世帯収入を上昇させることが必要になります。

男性が400万円しか稼げないのならば女性も200万円を稼いで世帯収入を600万円にすればよいということです。男性が300万の収入ならば、女性も300万円稼いで世帯収入を600万円にすればよいということです。そして、そのように女性も働くのならば、男性も家事・育児を負担するべきだ、ということになります。これがこれからの結婚のあり方ということになります。

さらに私からは、もう1歩進んで、社会全体として結婚しやすい社会を考えていただきたいと思っています。いくつかの提言を示したいと思っています。まず男性の長時間労働を減らすということです。男性

結婚がしやすい社会？

- 男性の長時間労働を減らす？
- 女性が働きやすくする？
- 男性も家事・育児を负担する？

が長時間働いていては、そもそも女性との出会いが少なくなります。そして女性と結婚しようとする余裕も無くなります。たとえ結婚したとしても、家事・育児を负担できなければ、夫婦関係もうまくいかなくなります。

私は別件でフランスと日本の労働時間の差を調べたことがあります。日本人の方がフランス人よりも労働時間は長いのですが、社会全体としてはそれほど大きな差は出てきません。しかし、男性の正規雇用の人だけを取り出して比べてみると、日本人はフランス人の倍以上の時間、働いています。女性や非正規雇用の人を入れると、この人たちはそれほど労働時間が長くないので国の差は小さくなりますが、男性の正規雇用だけを比べれば日本人はフランス人の倍以上働いているのです。それでいて1人あたりの国民所得はほぼ同じです。このような日本の長時間労働は何とか止めていただいた方がいいだろうということです。

2点目は、女性が働きやすい社会にするということです。女性も世帯収入を増やすために働かなくてはいけませんから、できるだけ女性が働きやすい、できれば正規雇用者として働けるような社会にしようということです。

最後は婚活推奨論と同じですが、男性も家事・育児を负担しようということです。

反論？

- 努力しなくても結婚相手は見つかる...と思う
(結婚は努力してするものではない)
- 結婚は個人の自由であり、他人から勧められるものではない
- 結婚を国のため、社会のための再生産装置と考える必要はない
- その他...

以上のような話をする、反論が出るかもしれませんが、出そうな反論を考えてみたいと思います。まず、結婚は努力してするものではないだろう、努力しなくても結婚相手は見つかると思う、というものです。結婚に偶然の出会いなどを期待しているのかもしれませんが、もちろん、偶然の出会いはあるかもしれませんが、これまで確認したように、結婚をめぐる条件が厳しくなっていることは事実であり、結婚を望むのならば、ある程度それは意識してもらい、そのために努力してもらった方がいいだろうという再反論ができるかと思えます。

また、別の反論として、結婚は個人の自由であり、他人から勧められるものではない、という人もいます。これはそのとおりです。しかし、繰り返になりますが、結婚をめぐる条件は客観的に厳しくなっているためであり、もし本人が結婚を望むのならば、

が長時間働いていては、そもそも女性との出会いが少なくなります。そして女性と結婚しよう

ある程度それは意識してもらった方がいいだろうということです。

それから、結婚は自分のためにするのであり、国のため、社会のためにするのではない、結婚を国や社会の再生産装置と考える必要はない、という反論が考えられます。これには私も賛成です。別に国や社会のためにと言って結婚を考える必要はありません。あくまでも自分のために結婚をすればいいのであり、結婚をする際に少子化対策などを考える必要はありません。ただし、多くの人が結婚を望んでいることは事実なので、それならばそのための条件を意識してもいいだろう、ということです。

* *

◆浦高関係者の皆さんに...

浦高関係者に...

- 政策立案に関わる人: 女性の就労環境の改善?
- 企業の重役に: 長時間労働の削減?
- 家庭で: 家事・育児をしよう?
女性にやさしくしよう?
- 未婚者に: パートナーを見つけよう?

私の話の最後になります。これまでの議論を踏まえて、浦高関係者の方にメッセージを送りたいと思います。

まず浦高関係者の方で、政策立案に関わる人がいらっしゃるのではないかと思います。その方たちには、是非、女性の就労環境の改善を考えていただきたい。女性が働きやすい社会にして欲しいということです。そして企業の重役の方がいらっしゃると思います。この方たちには、長時間労働を是非削減して欲しいということになります。特に男性社員に対してですね。そして皆さんの家庭では、できるだけ家事・育児をしていただきたいと思います。今日のテーマになりますが、女性にやさしくしようということです。そして未婚者の方がいらっしゃるかと思います。結婚したくないということでしたらよいのですが、してもいいという方は是非パートナーを見つけていただきたいと思います。

最後に今日の話の参考文献

参考文献

- 上野千鶴子『女たちのサブカル作戦』文春新書、2013
- 小倉千加子『結婚の条件』朝日文庫、2007
- 山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』ちくま新書、1999
- 山田昌弘『少子社会日本』岩波新書、2007
- 山田昌弘・白河桃子『婚活時代』ディスカヴァー携書、2008
- バウマン『リキッド・モダニティ』大月書店、2001

ご清聴有り難うございました

文献をいくつか挙げておきました。ご清聴有り難うございました。

[資料は、豊田さん提供]

* *

やはり豊田由貴夫さんの講演で大正解でした。(ˆoˆ)v

